

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

不思議との出会い／常磐会短期大学付属常磐会幼稚園

子どもたちの素朴な「不思議との出会い」「気付き」にどのように寄り添っていますか？

身近な自然、人、ものと関わり、子どもたちは不思議を感じたり、様々な気付きをしたりしています。そして、それらを友達や保育者に受け止められた子どもたちは、さらに興味や好奇心を膨らませていきます。

この様な、子どもたちに「科学する心」が育まれる「不思議との出会い」「気付き」を大切にしている園の事例をご紹介します。



○キラキラおばけみつけた！／3歳児

✿ あの光ってるやつ、何？

「あの光ってるやつ、何？」と、欠席の友達を職員室に伝える“おやすみ調べ”をしに職員室へやってきたKちゃんとLちゃん。

上を向いて何やら叫んでいる。

Kちゃん：「あれ何？あれ何？」

その光は波のようにユラユラと揺れている。

保育者は、初め死角ミラーの反射と思った。

そして、もう一度子どもの視線の先をよく確かめて見てみると、天井に何かがキラキラと光っていた。

Kちゃん：「な！光っているやろ！あれ何かなあ？」

Lちゃん：「おばけちがうの！？」

Kちゃん：「えー！キラキラおばけやん！」

- 保育者も驚き、何が映っているのだろうと不思議に思った。見ると、園庭の水溜りに溜まった雨水に太陽の光が差し、天井に反射している。一緒に、天井の光を確かめながら周辺を探した。Iちゃんは光の下のテラスに顔を近付けて探している。その時、光の動きが変わり、一つの方角から大きな波のようなものが現われた。

Kちゃん：「うわ！おばけが動いた！」と、嬉しそうに目を光らせて喜んでいる。

- その時Lちゃんは、水溜りに溜まった水に興味をもっていった。汚れることが苦手なJちゃんは、水をそーっと、ツツツと指先で触っている。Jちゃんが、水面を触ることで、キラキラおばけは動いていた。IちゃんとJちゃん、それぞれに声をかける。

Lちゃん：「お水、いっぱい溜まっているね。ツツツしたら冷たいよ」

保育者：「ほんとだね。昨日雨がたくさん降ったもんね。…あ！K君！またおばけが動いたね！」保育者の言葉に、Lちゃんもキラキラおばけに興味をもち始める。

Lちゃん：「このお水が映ってるんだよ！」

保育者：「そうかもしれないね」

- Lちゃんが、水溜りに溜まっている水が天井に映っているのだと気付く。キラキラおばけを見ながら水をツツツ触ると、水の動きに合わせてキラキラおばけも波を打って動き出す。

保育者：「Lちゃんが水をツツツさせたらキラキラおばけも動いたね。この水が映っていたんだね。面白いこと見付けたね」

Lちゃん：「面白い！K君見て見て。ここのお水が映ってるねんで。Lがお水触ったら、キラキラおばけさん動くねんで」



- 子ども同士で発見を伝え合い、Mちゃんもやってきた。水を触ってキラキラおばけが動くたびに歓声をあげて喜んでいる。ツツンするとゆっくりと動き、ジャバジャバすると大きく動くこともあるが、光が薄れる時もあった。

❖ あれ？キラキラおばけ、いなくなった

- 3日後、また雨が降り、次の日には昨日の水溜りに水が溜まった。天井を見るとキラキラおばけが姿を現していた。Kちゃんは、気付かず他の遊びをしていたが、他の子どもたちが同じ場所で泥遊びをしていたので、遊びながら待ってみることにした。クラスの友達が集まっていることに気づき、Kちゃんも水溜りにやってくる。

Kちゃん：「先生！キラキラおばけいてるやん！」

保育者：「そうだよ。今日はキラキラおばけ遊びに来ているよ」

- 見つけたKちゃんは、とても嬉しそうに水を触る。優しくツツンしたり、ジャバジャバと水面を揺らしたりしていた。すると段々と水が濁り始め、キラキラおばけが消えていく。

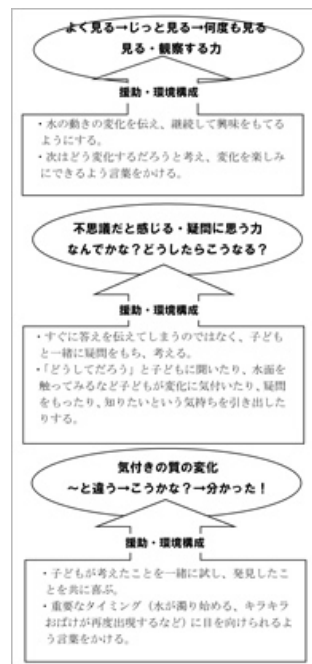
Kちゃん：「あれ？キラキラおばけ、いなくなった」

- しかし、少し時間が経つと、小さい光が現れ、段々とキラキラおばけが姿を現した。

Kちゃん：「キラキラおばけが出てきた！」と言って喜び、次は激しく水をかき混ぜる。するとまたキラキラおばけは姿を消した。

Mちゃん：「K君が、ジャバジャバやってたから、キラキラおばけびっくりして隠れたんちがう？」

- その後も二人はキラキラおばけが現れると水をかき混ぜ、消えては段々と現れることを喜んでいた。しかし水が濁り過ぎて戻らなくなり、その日はキラキラおばけは姿を現さなくなった。



クリックで拡大

❖ その後の姿

- その後、「今日もいなかった」とみんなに伝えたり、天井を見上げてキラキラおばけの姿を探したりしていた。雨の後に見つけた時は「今日はいたよ！」と嬉しそうに皆に伝えていた。
- また別の場所でもキラキラおばけを見つけた子どもがいた。それは池の水が映ったものであった。水が光って映っているのだということを以前の経験から知っている子どもたちは、すぐにキラキラおばけの正体に気づき、池に関心をもち始め、手を当てて影を作ったり、水面を触って波を立てて、キラキラおばけが動く様子を見て喜んだりしていた。



❖ 考察

- 天井の一部分だけがなぜ光っているのか、そしてその光がゆらゆらと動いていたことが、子どもの興味や不思議に思う気持ちを引き出した。
- 子どもの視線の先にあるものや発言を丁寧に、正確に捉え、子どもが本当に伝えたいことを聞きとることの大切さ、そして難しさを感じた。
- 水が透きとおっていると太陽の光が水を透過するので水が光り、反射して天井に映し出されてキラキラおばけが出現する。しかし、濁っていると光は透過しなくなり、キラキラおばけは消えてしまう。大人の目から見ると、水が反射して映っているのだと考えることも、子どものまなざしは様々な事象が不思議に見え、そこから面白い気づきが生まれ、新たな発見へと繋がった。
- 子どもの気づきにすぐに答えを出すのではなく、子どもの発見を引き出すことができる時間の流れを重視する。
- くり返しの遊びや観察、経験からの気づきなどが導き出される環境を整えること、保育者の受け止めが大切であると感じた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」